

# ライチ便り No. 3

～福岡広州ライチ倶楽部会報 2008年11月号～

## 第1回飲茶会、楽しみました

10月7日、福岡市婦人会館“あいれふ”で第1回飲茶会を開催しました。午後3時から春巻や胡麻団子など数種類の点心づくりを、周龍梅さんの指導をいただきながら皆で作りました。18:30からはレストランのように飾られた隣室で、お茶と点心をいただきながら鄭慧栄さんの広州紹介を聞きました。

点心づくりには「家ではやったことがない」という何人かの男性も参加して、ワイワイガヤガヤ楽しい料理教室となりました。不慣れのために材料の買い方がまずく、途中で買いに走ったり、多すぎて余ったり…。次回はもっと手際よくできるでしょう。

鄭さんの、映像を駆使した詳しく分かりやすい紹介で、広州のことがぐっと身近に感じられるようになりました。参加者は点心づくりに26人、飲茶・講演会には総勢45人で、レストランは満席の盛況でした。



## 広州天河区の芸能文化公演



昨年につき、広州天河芸術団がアジア太平洋フェスティバルの舞台に登場しました。市役所西側広場をはじめ、キャナルシティ、福岡空港、中央児童館でも歌や踊り、二胡の演奏などを披露したほか、有住小学校を訪問して子供達とも交流しました。

民族色豊かな歌や踊りは人々の興味を引きつけ、子供達も熱心に見入っていました。

## インターンシップ研修生受入れ企業を募ります

福岡市姉妹都市委員会が広東外語外貿大学と連携して日本語学生のインターンシップ交流を実施することになりました。ついては福岡広州ライチ倶楽部の会員企業に研修生の受入れをお願いできないか、という相談を受けています。

時期：平成21年2月5日～15日 このうち研修日は9日～13日（除11日）の4日間。

人数：10人程度 1社に1人の受入れをお願いします。

費用：研修生負担 宿泊は玄南荘（1泊2食付き3000円）、そこから毎日通勤します。

受入れ企業には費用面のご負担はありません。

日本理解の一環として企業での研修を希望しています。ふるって受入れをお願いします！受入れについてのお問い合わせ・ご連絡はeメール（末尾のアドレス）かFAX（0940-36-3049）までお願いします。

\*\* コラム・広州雑学 ③ \*\*

### 広州の五羊仙人伝説

昔むかしのある年、そのころ“楚庭”と呼ばれていた広州地方は、雨が降らず河が干上がり、草木もすっかり枯れ果てるといふ大変な干害に見舞われました。人々は必死に天に祈り、雨乞いをしました。この祈りが天上の五人の仙人に届いたのです。

赤、橙、黄、緑、紫の衣をまとった五人の仙人たちは、稲穂を口にくわえた五頭の仙羊にまたがり、五色の雲にのって楚庭に舞い降りると、稲穂を農民に手渡して、「この地は永久に飢饉に遭うことはない」と祝福し、また天へ帰っていきました。後に遺った五匹の仙羊は石になり、この地を守り続けるようになりました。

それ以後、この地方は順調な気候と豊作に恵まれ、人々は豊かになりました。人々は感謝を込めて五人の仙人を祭る“五仙観”を作りました。そのうち“穀物の神”と称される仙像は五羊の像を伴っています。幾度かの変遷を経て、現在この“五仙観”は広州市恵福路に安置されています。付近の“仙隣巷”や“仙羊街”という地名はこの伝説にちなんでつけられたもので、広州を“羊城”とか“穗城”という愛称で呼ぶのもこの伝説に由来しているのです。

（2005年版“走進広州”より）

この話は、飲茶会の時に鄭慧栄さんも紹介していましたね。

広州の越秀公園に行ったことのある方は、その一隅にある“五羊の塑像”をご覧になったことがあるでしょう。1959年に有名な彫刻家達が共同で作った、高さ11メートル、体積53立方メートルの大きな花崗岩の塑像です。表情豊かなこの“五羊の塑像”は、今では広州のシンボルとして親しまれています。

\*会報を送付するのは電子メールが便利です。メールアドレスをお持ちの方は是非お知らせください。  
連絡先：chiba.y01@city.fukuoka.lg.jp または y-chiba.naga@tnb.bbiq.jp